



埼玉県マスコット
「コバトン」

平成25年産（24年播種）



麦類の作柄概況

埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所

1 気象概況

(1) 気温

1 1月～2月まで平年より低く推移した。3月は記録的な高温となった。4月は平年並みで、5、6月は平年より高く推移した。

(2) 降水量

4月上旬はまとまった降雨により多かったが、他は平年並みから少なく、1 1月から6月までの降水量は平年の73%であった。

(3) 日照時間

1 1、12月は平年並で、1月～5月までは平年より多く推移した。6月は少なかった。

(4) 特徴的な気象と麦類への影響

特徴的な気象	麦類への影響
・ 冬期の低温	・ 麦の生育遅延 ・ 基肥窒素の残留による生育後半の茎数、穂数増、長稈化
・ 生育期間を通じた少雨	・ 麦の生育遅延 ・ 基肥窒素の残留による生育後半の茎数、穂数増、長稈化
・ 3月の高温	・ 生育の急速な回復 ・ 出穂期の前進

2. 作柄概況

(1) 水田農研 生育相調査結果

ア 小麦（農林61号）

出芽、苗立は良好であった。

播種時から2月までは低温、少雨のため、生育は抑制気味で、葉位の進展は遅れ、茎数、生育量とも平年を下回って推移した。その後、3月の高温と、低温、少雨により基肥窒素の肥効が生育後半まで持続したことから、生育は急速に回復し、茎立以降、草丈、茎数とも平年を上回って推移した。有効茎歩合が高まり、穂数も多く確保された。

茎立期は平年より5日遅かったが、高温により葉位の進展が早まり、出穂期は平年より2日早まった。

また、高温により急速に草丈が伸長し、風乾歩合の低い軟弱な生育となったことから倒伏が発生した。

登熟は多照により良好で、成熟期は平年より2日早まった。

収量は、穂数、1穂粒数とも平年を大きく上回り、千粒重が平年並みであったことから、平年比137と多収であった。

外観品質は平年並みに良好であった。

イ 大麦（はるな二条）

出芽、苗立は良好であった。

小麦同様、初期生育は低温、少雨により抑制傾向であったが、3月以降、生育は急速に回復し、草丈、莖数とも平年を上回って推移し、有効莖歩合が高まり、穂数も多く確保された。

莖立期は平年より5日遅かったが、高温により葉位の進展が早まり、出穂期は平年より2日早まった。

また、小麦同様、長稈化と軟弱な生育により倒伏が発生した。

登熟は多照により良好で、成熟期は平年より1日早まった。

収量は、穂数、1穂粒数、千粒重とも平年を大きく上回り、平年比149と多収であった。また、整粒歩合も高く、整粒重（2.5mm以上）も平年比153と極めて多収であった。

外観品質は平年並みに良好であった。

（2）県内全般

播種は11月上中旬の周期的な降雨によりやや遅れていたが、下旬は降雨も少なく、順調に進んだ。一部排水不良ほ場等では播種の遅れが見られた。

11月15日頃までに播種されたほ場では出穂、苗立は順調であったが、以降に播種されたほ場では、低温により出芽が遅れ、12月に播種されたものは出芽に1ヶ月以上かかったものもあった。

大麦、小麦とも所内同様、初期生育は遅れ、生育量は小さく推移したが、3月以降、生育は急速に回復し、草丈、莖数とも平年を上回り、穂数も多く確保された。

出穂期は大麦、小麦とも平年並～3日程度早まった。

成熟期は大麦、小麦とも平年並～3日程度早く、収穫も概ね平年並に行われた。

収量は、穂数が平年より多く、登熟も良好であることから、平年並みから多収であると思われる。

表1 耕種概要 (水田農研 生育相調査)

播種様式	条間 (cm)	麦種	品種	播種期(月日)		播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
				本年	平年		元肥	追肥(6~7葉期)
ドリル播	30	小麦	農林61号	11.9	11.9	8	8	2
		二条大麦	はるな二条	11.9	11.9	6	7	0

注) 1. 平年値は、過去7年間の平均値。以下同様。

表2 生育調査 (水田農研 生育相調査)

品種		出芽期 (月日)	苗立数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期調査			倒伏 程度
							稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	
農林61号	本年	11.21	177	84.7	4.16	6.8	100	8.6	728	2.5
	平年	11.20	179	88.6	4.18	6.10	95	8.0	603	—
	平年比(差)	1	99	-3.9	-2	-2	106	108	121	—
はるな二条	本年	11.21	141	94.5	4.4	5.21	104	5.3	1018	2
	平年	11.20	133	93.1	4.6	5.22	94	4.8	721	—
	平年比(差)	1	106	1.4	-2	-1	111	110	141	—

注) 1. 農林61号の成熟期は倒伏により一部、達しなかったため、倒伏程度の軽い部分で判断した。

2. 倒伏程度は0~5の6段階評価

表3 収量及び収量構成要素 (水田農研 生育相調査)

品種		藁重	精子 実重	整粒重	有効 穂数	1穂 粒数	m ² 当 粒数	千粒重	1リットル重	整粒 歩合
		(kg/a)	(kg/a)	(kg/a)	(本/m ²)	(粒)	(千粒)	(g)	(g)	(%)
農林61号	本年	65.4	69.8	69.6	705	28.4	20.0	38.7	781	99.7
	平年	60.3	50.9	50.6	581	23.5	14.1	38.4	796	99.5
	平年比(差)	108	137	137	121	121	142	101	98	0.2
はるな二条	本年	73.1	67.7	56.8	870	20.3	17.7	44.9	669	83.8
	平年	52.4	45.4	37.2	705	19.1	13.2	38.4	708	81.8
	平年比(差)	140	149	153	123	106	134	117	95	2.0

注) 1. 精子実重は風選により屑麦を除いた重量、整粒重は篩選(小麦2.0mm、ビール大麦2.5mm)後の重量。

2. 整粒歩合は、篩選(小麦2.0mm、ビール大麦2.5mm)による。

3. 精子実重、整粒重、千粒重、1リットル重は水分換算値(小麦12.5%、大麦13%)。

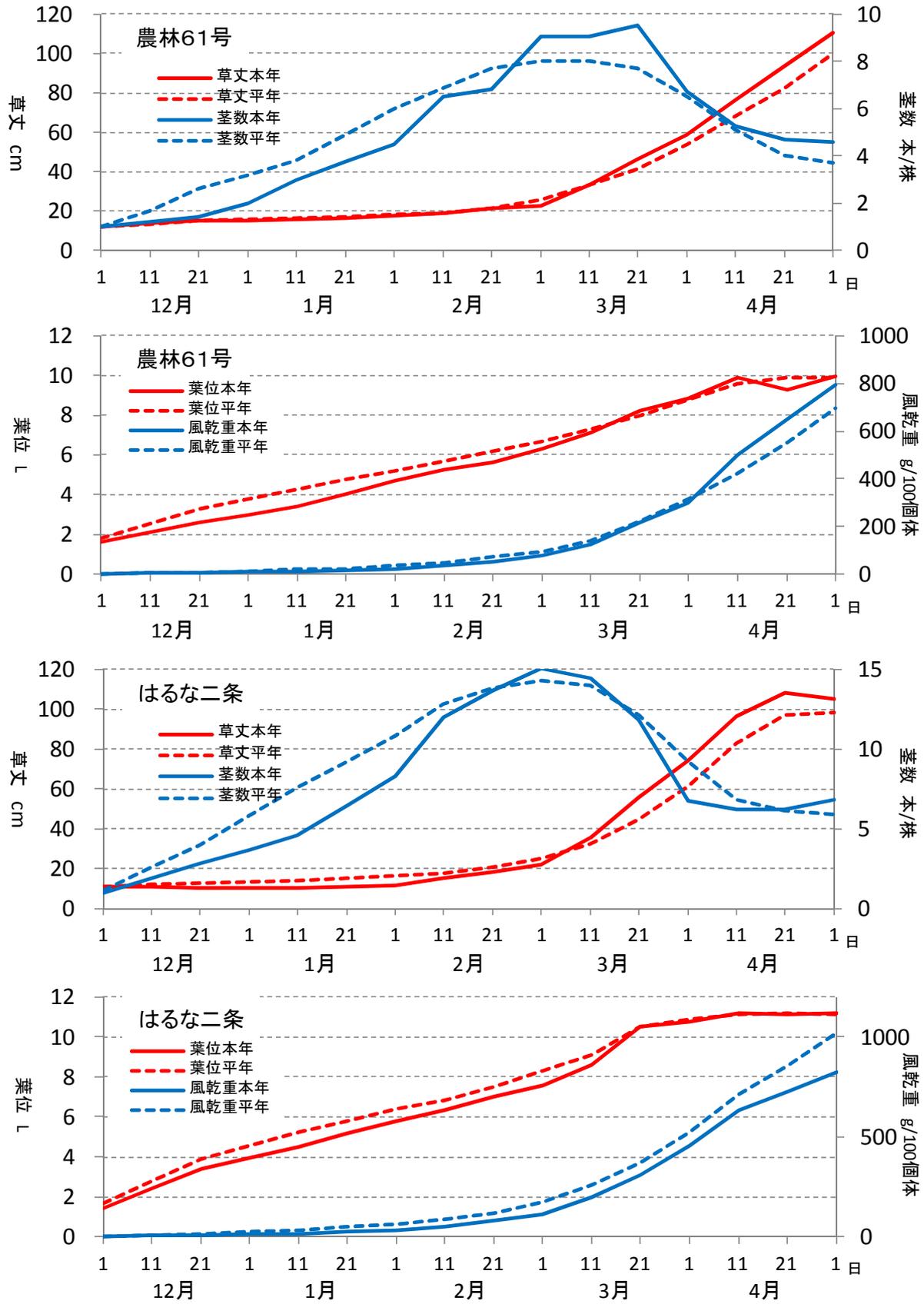
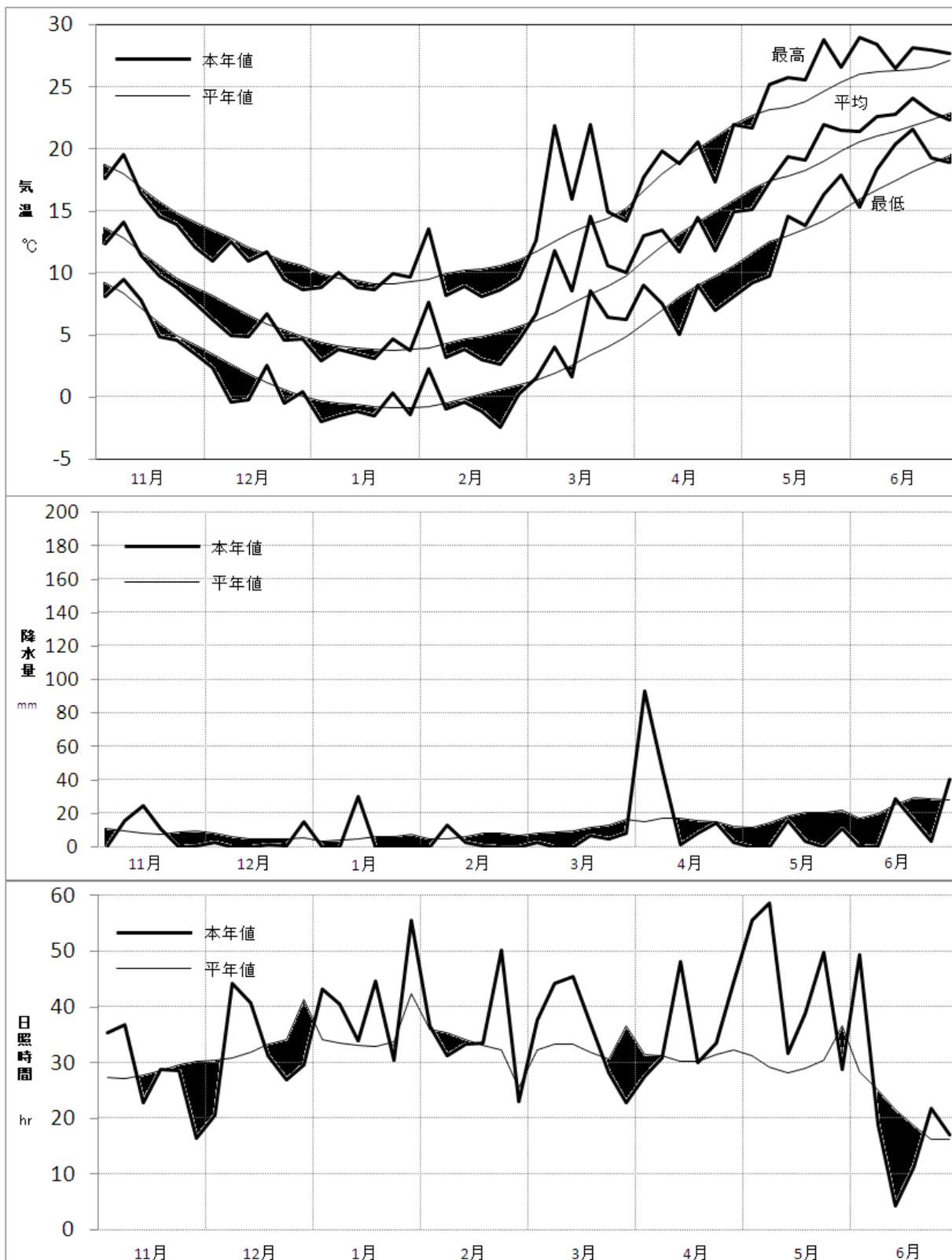


図1 生育経過



平成24年播(平成25年産)冬作期間気象図

(熊谷地方気象台データより)